

木材・プラスチック再生複合材に特化 高付加価値化に成功、地産地消に貢献

廃木材と廃プラスチックを原材料とする「木材・プラスチック再生複合材（略称：WPRC）」の開発・製造・販売に特化。国内最大級のプラントを有し、2002年創業以来、技術開発を重ねながら実績を伸ばし、専門メーカーとしては最長寿企業となった。主原料のほぼ100%にリサイクル材を使用しながら、機能性や意匠性の向上による高付加価値化に成功し、確かな需要を獲得するとともに、地域の廃木材や未利用材を活用することで、地産地消の循環型まちづくりに貢献している。

- | | | | |
|----------|---|--------|----------|
| ● 所在地 | 福岡県北九州市若松区響町1-12-1 | ● 設立 | 2002年 |
| ● 電話/FAX | 093-751-2424/093-751-2430 | ● 資本金 | 30,000万円 |
| ● URL | http://www.eco-wood.jp | ● 従業員数 | 48人 |
| ● 代表者 | 代表取締役社長 石本 康治 | | |



製品の環境配慮性と信頼性を活かしヨーロッパやドバイにも販路開拓

海外においても、製品の環境配慮性と信頼性が高く評価されており、ヨーロッパなどで販売の実績がある。これまでに、スペインのビルやスイスのホテルに採用されたほか、ドバイのホテルではプールサイドのデッキに使用されており、意匠性と品質性が求められる市場の顧客ニーズにも対応してきた。今後は、MADE IN JAPANへの信頼性を活かし、富裕層の増加により商機が見込まれる東南アジアでの展開を計画するなど、販路の開拓・拡大に取り組んでいる。



アラブ首長国連邦ドバイにおける採用事例

地域の廃材等を活用した「新しい地産地消」により循環型まちづくりに貢献

建築解体廃材、間伐材や放置竹林など、地域で発生する廃木材や未利用材の活用ニーズを掘り起こし、「新しい地産地消」としてオーダーメイド・リサイクルの取組を進め、循環型まちづくりに貢献。ひとつの事例として、学校の旧校舎で使用されていた木材からWPRCを製造し、新校舎のデッキ材として使用する取組も行っている。また、従来法リサイクル製品のようにワンウェイでなく、多数回のリサイクルが可能なため、既設物件の改修等における廃棄物抑制に効果を発揮、ストック型社会の構築を研究中。



高森高校デッキ納入事例

技術開発による高機能化と独自成型による高意匠化に成功

一般的なWPRCが有する耐候性・耐久性に加え、遮熱・自己消火・帯電抑制性能の付加や軽量化・高強度化に係る技術を開発し、商品の高付加価値化を進めてきた。また、独自の表面木質加工や木質柄出し成型により、高い意匠性が要求される建築ルーバーなどの新市場も開拓。さらに、JISマークやエコマークへの認定、グリーン購入法に基づく特定調達品目への指定等により、製品の環境配慮性と信頼性が保証されており、公共・民間ともに高い評価のもと多くの採用実績がある。



ルーバー使用例